

はばたく中小企業・小規模事業者300社

ごあいさつ 経済産業大臣 赤澤 亮正氏

このたび、2025年度のはばたく中小企業・小規模事業者300社に選出されました皆さま、誠にありがとうございます。皆さまの不断の挑戦と地域経済への貢献に深く敬意を表し、感謝を申し上げます。素晴らしい活動を続けておられる皆さまをお迎えし、一堂に会して表彰できることを大変嬉しく思っております。

日本経済に目を向けると、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となっております。名目GDP(国内総生産)も600兆円の大台を超え、700兆円をうかがうなど、日本経済に明るい兆しが現れています。他方、わが国においては、人口減少や少子高齢化に伴う労働供給制約が、中小企業経営



中小企業庁の山下隆一長官が表彰状を授与



選定企業の分野別内訳

成長戦略・生産性向上	海外展開	GX	DX	人への投資・環境整備	計
151	62	19	30	38	300社

環境はかつてないほどにめまぐるしく変化が激しくなっている。そうした中でも事業変革に果敢に取り組み、海外販路の開拓、デジタル技術の活用、多様な人材活用や働く環境整備などの分野で活躍している中小企業の実績は大きい。

同表彰では「成長戦略・生産性向上」「海外展開」などテーマ別に選定されている。独自の技術やアイデアによって生産性向上に成功した企業、AI(人工知能)を駆使して技能伝承に取り組み企業など、選定された企業はいずれもユニークで、レベルの高い企業ばかりだ。

経産省ではこうした企業の認知度向上を図り、継続的かつ安定的な成長を支援しようと呼びかけを続ける。優れたモデルを発信することで、それをヒントに日本を支える多くの中小企業のチャレンジや成長していく姿につなげていくことを目指している。

地域経済を支える中小——顕彰

日本企業における「中小企業・小規模事業者」の割合は9割を超える。わが国の産業と地域経済の根幹となる重要な存在だ。一方で労働力不足や次世代への事業承継など、さまざまな課題に直面している企業も多い。そのような中、経済産業省および中小企業庁は力強く事業変革や新規事業に果敢に挑戦し、活躍が期待できる中小企業・小規模事業者300社を選定し、表彰事業を行っている。ここでは、2025年度に表彰された企業の中から、独自技術やアイデアを磨き、将来の飛躍が期待される企業を紹介する。

不断の挑戦と地域経済への貢献に敬意

における構造的な課題として一層深刻化しております。

この労働供給制約社会においては、中小企業も数より質であり、経済の供給力強化のためにも、強い中小企業・小規模事業者になっていただく必要があると思います。またこうした社会では、賃上げは単なる分配政策というわけではありません。人材を引きつけ、生産性向上投資を促し、企業の構造変容を促進する供給力強化政策そのものであり、成長戦略の起点であると思っています。

そのために、現状維持ではなく、変化に挑む中小企業・小規模事業者の皆さまを徹底的に支援し、必要な連携や再編を促すことで、稼働力の強化と賃上げの好循環を目指してまいります。

今回、成長戦略・生産性向上、海外展開、GX、DX、人への投資・環境整備の五つの分野から選定されています。受賞を契機として、今後も力強く活躍いただくことを期待しております。

(5月29日に開催された授賞式あいさつより一部抜粋)

人への投資・環境整備分野



最先端科学技術を支える本社工場

結晶総合メーカーの信光社は横浜市長区に本社工場を構え、創業79周年を迎えた。サファイアをはじめとする多層膜化合物半導体を開発・育成・製造し、時計、半導体、航空宇宙、通信、医療など世界の先端産業へ高付加価値製品を提供。スイス高級時計向けサファイア製品のほか、重力波観測施設「KAGRA」や小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトなど最先端科学技術を支える。創業以来、脈々と受け継がれてきた結晶育成・加工技術と最新技術を融合し、他社にはない「優異化」を追求。自ら道を切り拓く開拓者魂と、できるまでやり抜く挑戦心を大切に、人づくりを経営の柱として社員成長を支援している。横浜市長健康経営認証事業所として働きやすい環境整備に取り組み、サファイアをはじめとする地域貢献活動にも積極的に関わり、人を育てる企業風土を醸成している。

株式会社信光社

TEL : 045-892-2171

<https://www.shinkosha.com/>

成長戦略・生産性向上分野



特許出願中のウォータージェット工法用自動走行ロボット

創業70年を迎えた川口スプリング製作所は、二世帯「事業」の精神の下、時代の変化に応じた事業創出を続けている。初代がスプリング事業を築き、2代目が塗装・FA設備事業へと事業領域を拡大。そして2025年に39歳で代表取締役社長に就任した3代目の鬼塚新二氏は「環境インフラ設備事業を新たな成長の柱として掲げ、揮発性有機化合物(VOC)対策や脱炭素、省エネルギーに貢献する環境設備を提供するとともに、国土強靱化計画が推進される中、人手不足やインフラ老朽化といった社会課題に対応する自動化設備の開発にも注力する。鬼塚社長が就任時に掲げたスローガンは「We Choose the Future(未来は我々が創る)」。受け継がれてきた技術と挑戦の精神を糧に、持続可能で豊かな社会の実現に向けて新たな挑戦を続ける。

株式会社川口スプリング製作所

TEL : 048-252-1234

<http://www.kawaguchi-spring.co.jp/>

DX分野



多くのインド人エンジニアが活躍している

TKEは金属3Dプリンターを活用し、銅製コイルや積層造形(AM)クラントノズルの開発・製造を手がける。同社の誘導装置は、熱サイクルでは長寿命化により従来品の5〜10倍の耐久性を実現し、スベアコイル製造の削減による銅使用量の低減を達成し、ガス熱処理から誘導加熱への置き換えにより、二酸化炭素(CO2)排出量を約70%削減するなど環境負荷低減にも寄与している。さらに旋削・研削用スルで多くのインド人エンジニアが活躍している。

はAM技術を活用し、最適な吐出形状を実現することで品質不良や廃棄削減に取り組む。また3D-CAD、3Dスキャナー、CAE、AMを組み合わせたデジタル製造プロセスを確立し、コイル製造のDX化を推進。CAE技術の活用拡大やインドNITTE大学との連携によるデジタル人材確保などダイバーシティ経営にも取り組まながら日本経済の発展に貢献している。

TKE株式会社

TEL : 0567-68-8110

<https://www.takao-net.co.jp/tke/>



はばたく

中小企業・小規模事業者

300社

国連のAct Nowより「個人でできる10の行動」

家庭で節電する

私たちが使用する電力や熱の大部分は、石炭や石油、ガスを燃料としています。冷暖房の使用を控え、LED電球や省エネタイプの電化製品に取り替え、冷水で洗濯し、乾燥機を使わずに干して乾燥させてエネルギー消費量を減らしましょう。

徒歩や自転車で移動する、または公共交通機関を利用する

世界中の道路が車であふれ返り、そのほとんどが軽油やガソリンを燃焼させています。自動車に乗る代わりに徒歩や自転車で移動すれば、温室効果ガスの排出が削減され、健康と体力の増進に役立ちます。移動距離が長いときは列車やバスの利用を検討してください。また、自動車は可能な限り相乗りで利用しましょう。

野菜をもっと多く食べる

野菜や果物、全粒穀物、豆類、ナッツ類、種子の摂取量を増やし、肉や乳製品を減らすと環境への影響を大幅に軽減できます。一般に、植物性食品の生産による温室効果ガスの排出はより少なく、必要なエネルギーや土地、水の量が少なくなります。

長距離の移動手段を考える

飛行機は大量の化石燃料を燃やし、相当量の温室効果ガスを排出します。つまり、飛行機の利用を減らすことは、環境への影響を軽減する最も手取り早い方法の一つです。可能な限りオンラインで会ったり、列車を利用したり、長距離移動そのものを止めたりしましょう。

廃棄食品を減らす

食料を廃棄すると、食料の生産、加工、梱包、輸送のために使った資源やエネルギーも無駄になります。また、埋め立て地で食品が腐敗すると、強力な温室効果ガスの一種であるメタンガスが発生します。購入した食品は使い切り、食べ残しはすべて堆肥にしましょう。

リデュース、リユース、リペア、リサイクル

私たちが購入する電子機器や衣類などは、原材料の抽出から製品の製造、市場への輸送まで、生産の各時点で炭素を排出します。買う物を減らし、中古品を購入し、修理できるものは修理し、リサイクルして地球の気候を守りましょう。

家庭のエネルギー源をかえる

自宅のエネルギー源が石油、石炭、ガスのどれなのかを電力会社に確認しましょう。可能なら、風力や太陽光などの再生可能エネルギー源への切り替えができるかどうかを確認してください。あるいは、自宅の屋根にソーラーパネルを設置して家庭で使用する電力を随いましょう。

電気自動車にのりかえる

自動車の購入を予定しているなら、電気自動車を検討してください。より安価なモデルが市場にますます多く出ています。化石燃料から作られた電力で走行するにしても、電気自動車はガソリン車やディーゼル車より大気汚染の軽減に役立ち、温室効果ガスの排出量が大幅に削減されます。

環境に配慮した製品を選ぶ

私たちが購入するあらゆるものが地球に影響を及ぼします。あなたには、どのような商品やサービスを選択するかを決定する力があります。自身が環境に及ぼす影響を軽減するために、地元の食品や旬の食材を購入し、責任を持って資源を使ったり、温室効果ガス排出や廃棄物の削減に力を入れていたりしている企業の製品を選びましょう。

声を上げる

声を上げて、他の人たちにも行動に参加してもらいましょう。声を上げることが、変化をもたらす最も手取り早く、最も効果的な方法の一つです。あなたの隣人や同僚、友人、家族と話してください。経営者には、あなたが大胆な変革を支持することを伝えましょう。地域や世界のリーダーたちに、今こそ行動を起こすように訴えましょう。

イラスト: Niccolo Canova

暑すぎるのはいやだ。

洪水や山火事が増えるのはいやだ。

食べたいものが食べられなくなるのはいやだ。

いまできていることが、できなくなったらいやだ。

だから、全世界の89%の人が、気候変動対策の強化を望んでいる。

暮らしが、文化が、この星の美しさが、いつまでも続くことを、

声を大にはしなくても、心のどこかで願っている。

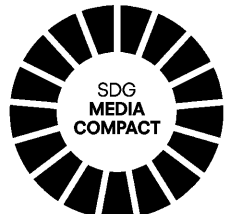
そんな一人ひとりの思いに、私たちメディアはもっと耳を傾け、みんなに届けていきます。

同じ思いを持つ人が、もっと大勢いるはずだから。

一人の声は小さくても、その声がたくさん集まれば、大きな力に変わっていくから。

いまずぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5℃の約束



日刊工業新聞社は「SDGメディア・コンパクト」加盟メディアとして、気候アクションを推進する国連のACT NOWキャンペーンを支援しています。

日刊工業新聞社

